

「農業」と「暮らし」の水を守る



最上川と清水揚水機場

最上川の水を山の上まで汲み上げる!?

新庄土地改良区では、ポンプで最上川の水を汲み上げ、新庄市を中心に約3千haの農地に農業用水を供給する『清水揚水機場』を管理している。

清水揚水機場ができるまでは、最上川と農地との標高差は約60mあり、川が低い所を流れていることから、豊富な水量がある最上川から直接水を引くことができず、長年、この地域では水不足に悩まされてきた。

この標高差を解消するために、最上川から100mほど高い、山の上にある貯水槽まで一旦水を汲み上げ、大人が中で立てるほどの大きなパイプラインにより、逆にその標高差を利用して農地に水を届けている。100mの高さまで水を汲み上げるため、清水揚水機場のポンプは、国内でも最大級の大きさだ。

さらに、農業用水が不要になる冬期間も清水揚水機場を利用し、市街地の消流雪用水としても活用している。新庄市は、積雪が1mを超えるのはあたりまえ。時には2mを超えることもある豪雪地域であり、市街地での雪片付けが大きな課題となる。市街地の側溝はもともと除雪のため大きく作られており、そこに十分な流水を供給することで、雪を流れやすくして市内から雪を排除している。この水がなければ、重機を使って雪を運ばなければならない。市内の冬の生活に欠かせない存在になっている。



冬の施設管理は雪との戦い



人が中で立てるパイプライン



3機のポンプで1秒間に最大5,900ℓの水を汲み上げる。

新庄土地改良区の管理MAP

新庄市内の消流雪としての利用

安定的に消流雪用水が供給される。



新庄土地改良区

中央管理センターでは、水量を管理して遠隔操作で調整している。



新庄土地改良区が水を管理する農地

駒場頭首工

一旦、河川と合流。この施設からそれぞれの農地に届けられる。



指首野川について説明する新庄土地改良区の栗田さん。川のはじまりが水門で、水量を調整できることを説明すると、生徒からは「山から流れてきてるんじゃないの?!」など驚きの声が上がった。

環境学習にも取り組んでいます

地域住民と県、新庄市、土地改良区等で発足した野中・中川原イバラトミヨ保全協議会では、四季を通して、地元の新庄市立北辰小学校の4年生を対象に「イバラトミヨ塾」という環境学習会を開催している。

夏の塾では、指首野川の探検や川の生き物調査を通して、学校の近くを流れる川の始まりが、ほ場整備事業で造成した水門であることや、最上公園(新庄城址)のお堀に水を引いていること、どのような生き物がいるのかなど、身近な河川の背景や環境について学んでもらった。参加した生徒からは、「川のはじまりが水門だったので驚いた。」「大きなイバラトミヨがいた」など多くの感想があった。